

令和7年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画/生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和8年1月29日

協議会名: 香取市地域公共交通協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
京成バス千葉イースト株式会社	<p>香取市循環バス(小見川市街地ルート)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●系統(北西(右回り)):小見川駅~小見川高校~小見川駅(5.5km) 運行回数:4回/日 ●系統(北西(左回り)):小見川駅~小見川高校~小見川駅(5.5km) 運行回数:4回/日 ●系統(南西):小見川駅~カインズ前~小見川駅(5.9km) 運行回数:10回/日 ●系統(北東):小見川駅~くろべ運動公園前~小見川駅(8.2km) 運行回数:8回/日 ●系統(山田):山田支所~おみがわ医療センター~小見川駅(7.4km) 運行回数:1回/日 <p>●系統運賃: 大人300円、中学生100円、小学生以下無料 障害者手帳所持者(大人)100円 障害者手帳所持者(中学生)無料</p>	<p>再編周知チラシや公共交通マップを作成し、公共施設、小見川地区に存する中学校及び高校等に配布及び市ホームページ、市SNSで情報発信することで、運行情報の効果的な提供を行う。 中学卒業予定者等に対し、利用促進リーフレットを配布し意識啓発を行う。 千葉県立小見川高等学校と連携した利用促進活動を行う。</p>	<p>A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。</p>	<p>B 事業が計画に位置づけられた目標を達成できていない点があった。</p> <p>目標①:利用者数11,161人 実績①:利用者数20,705人 分析①:主な利用者は小見川高校の通学者であり、該当ルートの北西ルートの利用者が全体の90.9%を占めている。 目標②:収支率10.0%以上 実績②:収支率7.6% 分析②:人件費・物価高騰等による運行経費増加により収支率が悪化したためであると思われる。</p>	<p>高校生の通学時間帯では、乗車率が高いため、より多くの利用者獲得のため運行便数を増やすなどの対応を検討する。また、スマホ定期の導入などを検討し、利用者数の増加及び収支率の改善を目指す。</p>
京成バス千葉イースト株式会社	<p>香取市循環バス(佐原市街地ルート)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●系統(西側(左回り)):佐原駅~山之辺~佐原駅(12.5km) 運行回数:4回/日 ●系統(西側(右回り)):佐原駅~山之辺~佐原駅(13.3km) 運行回数:3回/日 <p>●系統運賃: 大人300円、中学生100円、小学生以下無料 障害者手帳所持者(大人)100円 障害者手帳所持者(中学生)無料</p>	<p>再編周知チラシや公共交通マップを作成し、公共施設、佐原地区に存する中学校及び高校等に配布することで、運行情報の効果的な提供を行う。 中学卒業予定者等に対し、利用促進リーフレットを配布し意識啓発を行う。 千葉県立佐原高等学校や千葉県立白楊高等学校と連携した利用促進活動を行う。</p>	<p>A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。</p>	<p>B 事業が計画に位置づけられた目標を達成できなかった。</p> <p>目標①:利用者数13,500人 実績①:利用者数5,085人 分析①:廃止路線利用者からの流入不足、学生や観光客の利用者が少ないことが理由である。 目標②:収支率11.2%以上 実績②:収支率5.2% 分析②:利用者数の伸び悩みや、人件費・物価高騰等による運行経費増加により収支率が悪化したためであると思われる。</p>	<p>通学や買い物など、定期的な利用者の獲得のため、地域や事業者と連携した取り組みを検討していく。</p>

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
京成タクシーイースト株式会社	<p>小見川乗合タクシー 営業区域: 小見川中央小学校・小見川東小学校の通学区域地区(利根川以北を除く) 運行日:月曜～金曜 運行時間帯:第1便8時～第9便16時 運賃:大人600円、中高生300円、小学生以下無料 障害者手帳保持者300円 障害者介助者300円</p>	<p>地域(住民・利用者)からのお問い合わせが多い公共交通路線を一覧でまとめた「公共交通マップ」を作成し、市HP等での周知に加え、公共施設等での配架を通じて、運行情報の効果的な提供を行う。</p>	<p>A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。</p>	<p>B 事業が計画に位置づけられた目標を見達であった。 目標①:利用者数6,400人 実績①:利用者数6,087人 分析①:登録者が高齢であり自然減が発生したことで利用者の減少につながった。 目標②:収支率18.0% 実績②:収支率14.6% 分析②:利用者数の伸び悩みや、人件費・物価高騰等による運行経費増加により収支率が悪化したためであると思われる。</p>	<p>利用登録者を増やすため制度の周知を引き続き実施する。また、便当たり平均乗合人数が2人未満であるため、運行便数の最適化等を引き続き検討する。</p>
<p>地方運輸局等における 二次評価結果 (関東運輸局)</p>	<p>(協議会による一次評価の際は記入不要)</p>				

事業実施と地域公共交通計画／生活交通確保維持改善計画との関連について

令和8年1月29日

協議会名：	香取市地域公共交通協議会
評価対象事業名：	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>・香取市地域公共交通網形成計画の基本的な方針：</p> <ul style="list-style-type: none">①まちづくりと連携した地域間・都市間のアクセスを強化する公共交通の再編②各公共交通機関との相互連携や、誰もが利用しやすい環境整備により利便性向上③多様な主体地の連携による持続可能な公共交通の構築 <p>・上記を踏まえたフィーダー系統維持の目的・必要性：</p> <p>令和4年4月に一部過疎地域(旧佐原市、旧山田町、及び旧栗源町)指定、令和6年9月に交通不便地域(旧小見川町の一部)指定を受け、人口減少に伴う公共交通利用者の減少により、市公共交通自体の運行継続も厳しい状況となってくる一方、高齢者の増加に伴い、日常生活に必要不可欠な移動手段である公共交通の重要性はますます高まっている。</p> <p>このため、地域公共交通確保維持事業により、以下の路線を維持することで、住民の生活交通手段を存続させていくことが必要である。</p>